

IUGONETデータ解析講習会@名古屋 2012年2月24日(金)



RISHデータ解析講習

担当:新堀淳樹(京大RISH)











1. 講習内容

(1) 地球大気の鉛直構造とその観測測器

(2) 京大生存研の保有する観測測器とそのデータについて 赤道大気レーダー、信楽MUレーダー、 インドネシアの流星・MFレーダー

(3) 地球大気関係データの総合解析演習

基礎編1:MDBを使ってデータの有無の調査

基礎編2:UDASを用いたプロットの作成

応用編:他のデータセットとの統合解析



IUGONET 1. はじめに

<本講習会の目指すところ>

- 1. IUGONET(大学間連携)プロジェクトで開発しているプロダクト (メタデータデータベース、解析ソフトウェア(UDAS))を太陽地球 科学分野に属する研究者・学生に、この講習を通じて実際に触れてもらうことによって、その便利さや凄さを実感してもらう。
- 2. 利用者を増やすことによって、これらのプロダクトの弱点を指摘 してもらい、今後の開発過程の参考要素として取り組む。
- 3. 成果物の増産

多くの研究者がIUGONETのプロダクトを利用することで、太陽地球系の多様な研究が促進されれば、我々開発者の成果だけでなく、各機関のデータ提供もとの成果にもなる



1. はじめに

< メタデータDB・統合解析ツールの役割>

分野横断型のデータ解析による太陽地球系物理学研究の促進



気象学の専門家

Webでデータ 情報を調査 データの取得 Webの情報が不十分 データの取り扱いが不明 プロットの仕方が不明...



他の研究者に直接聞く、 問い合せることになるが これは時間がかかる



メタデータDB

〇日時、緯度・経度などの<mark>物理パラメータ</mark>による<u>データセット</u>の存在・在処の検索、 キーワードによる検索

説明、Instrument論文、コンタクト先、 データポリシー、データパラメータ、...

〇実データDBと連動することにより<u>データ</u> ファイル単位の検索

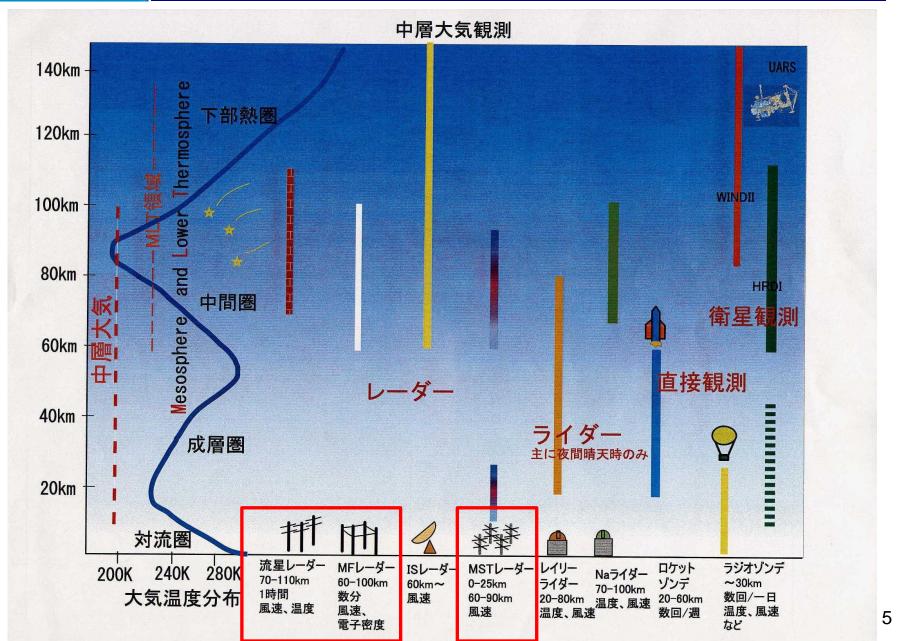
統合解析ツール



- 異種データをとにかく並べてプロットできる (時系列で比較)
- 公開データについては日時指定で自動 でダウンロード
 - →プロット
- ・ FFTやwaveletなどの周波数解析などの 機能もある



2. 地球大気の鉛直構造とその観測測器





3. RISHの保有する観測データ

<IUGONETで提供予定の生存圏データー覧>

<信楽MU観測所>

MUレーダー (対流圏・成層圏標準観測) ◎

MUレーダー (中間圏標準観測)

MUレーダー (電離圏標準観測)

MUレーダー (特別観測:

流星/RASS/FAI)

ラジオゾンデ

境界層レーダー

レバンド下部対流圏レーダー

ウインドプロファイラー(LQ-7)

アイオノゾンデ

流星レーダー

下部熱圏プロファイラーレーダー

シーロメーター

AWS

ジャカルタ流星レーダー

ビアク流星レーダー

ダーウィンラジオゾンデ (キャンペーン観測)

太字 (下記+)データファイルのメタデータ抽出済

赤字+下線: 全データセットについてメタデータ提出済

赤字· データセットの一部についてメタデータ提出済

青字: 抽出作業中

黒字: 未着手(来年度作業予定) <赤道大気観測所>

EAR (対流圏・成層圏標準観測)

EAR (電離圏FAI観測)

境界層レーダー

Xバンド気象レーダー

シーロメーター

ラジオゾンデ

<その他>

ポンティアナMFレーダー

パムンプクMFレーダー

コトタバン流星レーダー

スルポン境界層レーダー

◎:解析ソフトウェアに対応



IUGONET 4. 京大生存研の保有する観測測器

<インドネシアのMF、流星レーダー群>



Meteor radar Kototabang (2002-)

MF radar Pontianak (1995-)

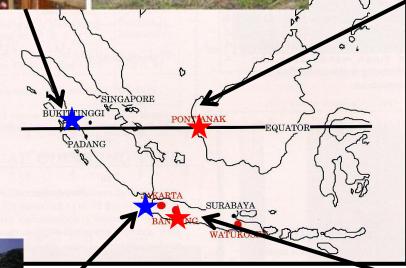
Regional network in Indonesia (1992-) 流星レーダー

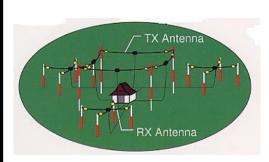
(Jakarta, Koto Tabang)

MFレーダー

(Pontianak,

Pameungpeuk)





Meteor radar Jakarta (1992-1999) MF radar



MF radar Pameungpeuk (2004-)



5. 京大生存研の保有する観測測器

<コトタバン流星レーダーについて>



コトタバン流星レーダーの諸元

位置: 東経100.320度、南緯0.204度、

海抜865m

中心周波数: 37.7 MHz

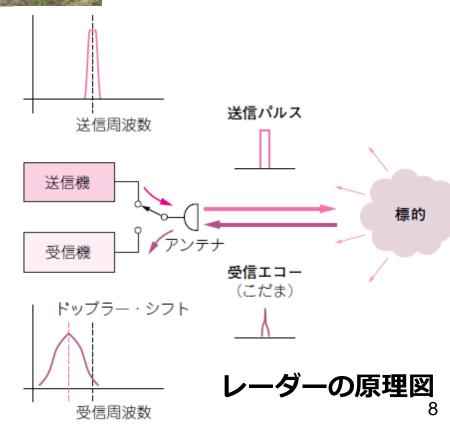
送信出力: 12 kW

観測高度: 70km-110km (中間圏・

下部熱圏風速)

5本のアンテナの干渉計で全天の流

星飛跡の方向を計測

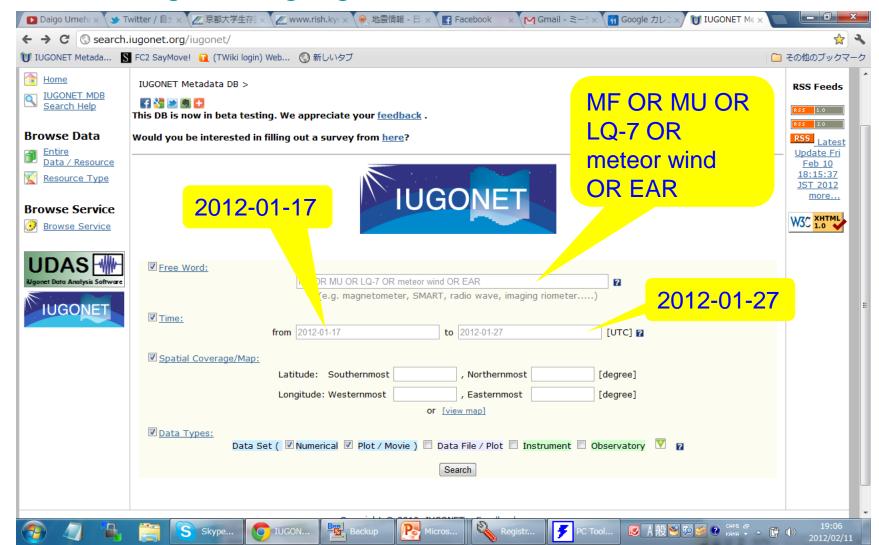




IUGONET 6. MDBを用いた対象イベントデータ

<対象イベント:2012年1月22日磁気嵐現象>

http://search.iugonet.org/iugonet/

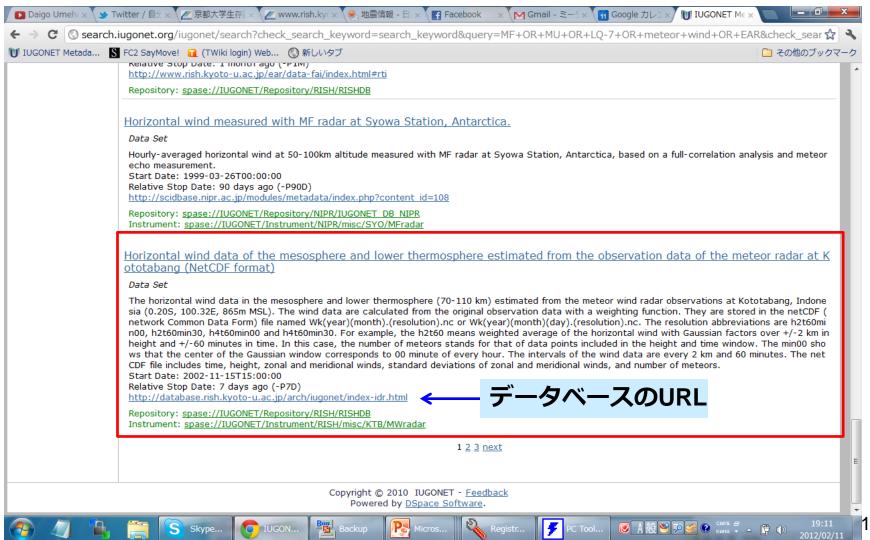




IUGONET 6. MDBを用いた対象イベントデータ

<対象イベント:2012年1月22日磁気嵐現象>

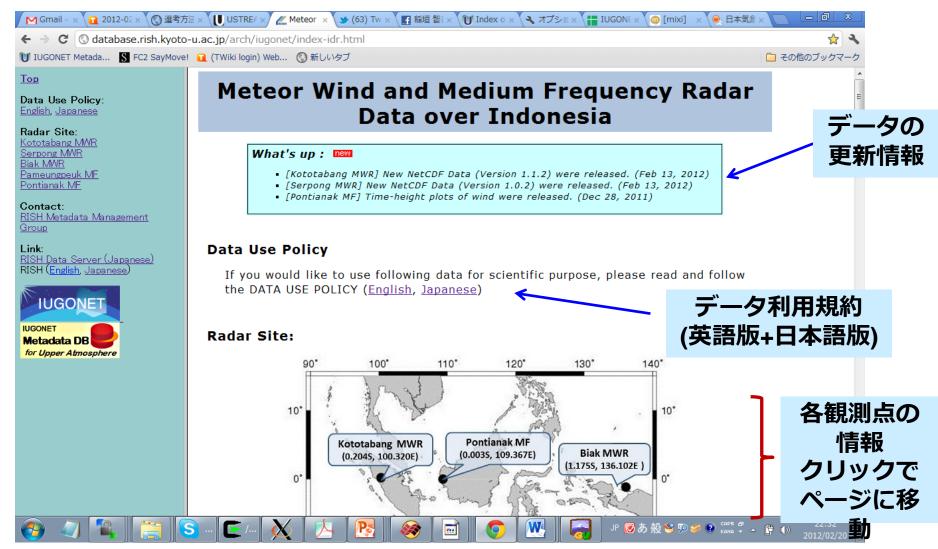
コトタバン流星レーダーの数値データに対するメタデータ





6. インドネシアのデータベースHP

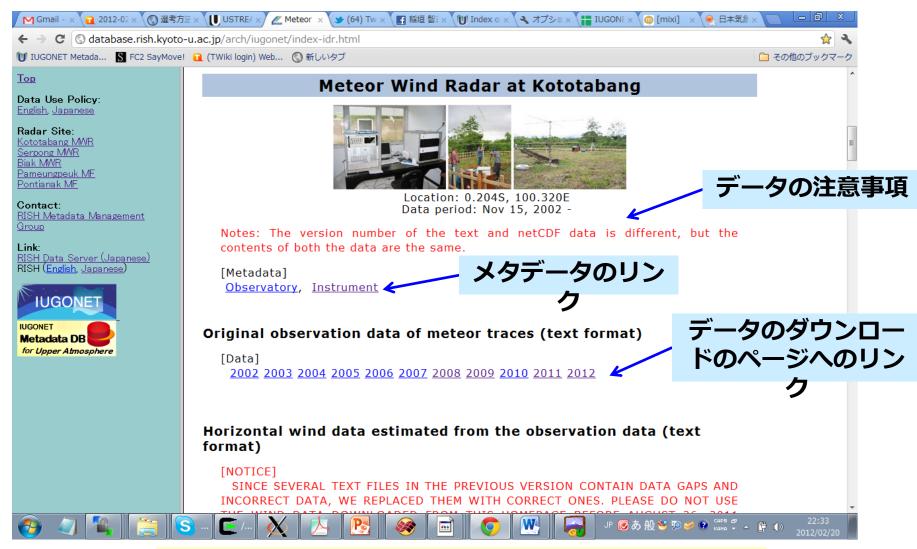
<インドネシアMF・流星レーダーのデータベース>





<u>6. インドネシアのデータベースHP</u>

<インドネシアMF・流星レーダーのデータベース>

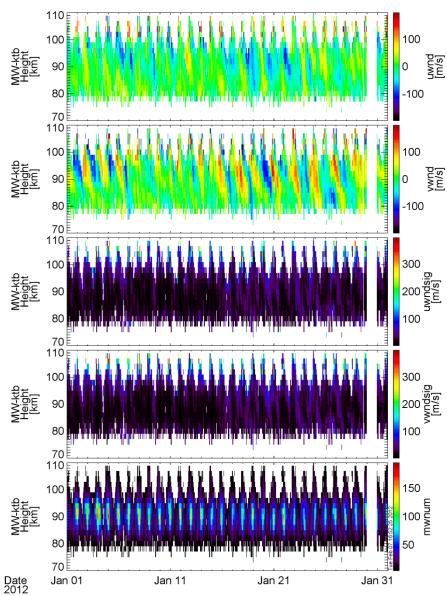


2012年2月19日までのデータが利用可(2月20日現在)



7. 流星レーダーデータ解析演習

<下部熱圏・中間圏の風速データ解析> [基礎課題1]



コトタバン流星レーダー観測から得られた熱帯域の熱圏下部の風速の高度時間プロットの作成

日時:2012/01/01-2012/02/01

観測高度範囲: 70-110 km

時間分解能:1時間

1段目:東西風

2段目:南北風

3段目:東西風の分散

4段目:南北風の分散

5段目:流星数

下部熱圏(80-100 km)の南北成分に おいて2日波が観測されている



IUGONET 7. 流星レーダーデータ解析演習

- <下部熱圏・中間圏の風速データ解析> [基礎課題1]
- (1) コトタバン流星レーダーデータ解析-1
- ●日時を指定して高度-時間プロットを作成する
- > <mark>timespan</mark>, '2012-01-01', 31 ,/day (2002/01/01から31日分のデータの日時指定)
- > iug_load_meteor_rish, site = 'ktb', parameter = 'h2t60min00'
- > tplot_names (tplot変数名の確認) 風速2成分とその分散、流星痕のtplot変数がロードされる
- > tplot, 'tplot変数名'
 - ⇒プロットが出力される
 - ※複数のプロットをしたい場合: > tplot, ['tplot1', 'tplot2',...]



IUGONET 7. 流星レーダーデータ解析演習

- <下部熱圏・中間圏の風速データ解析> [基礎課題1]
- (2) コトタバン流星レーダーデータ解析-2
- ●簡単な解析の演習
- > <mark>zlim</mark>, 'tplot変数名', 最小値、最大値 (カラーバー範囲変更) (ex. > zlim, 1, -20,20)
- > avg_data, 'tplot変数名', 時間(秒)

例えば、東西風速の1日の平均値を求めたい場合、tplot変数名のところ に東西風速を表すtplot変数名を、時間のところに86400秒をいれればよ U10

> y<mark>lim</mark>,'tplot変数名', 最小値、最大値(y軸の範囲変更)

例えば、東西風速の高度80-100kmの熱圏下部の部分に拡大したい場 合は、 tplot変数名のところに東西風速を表すtplot変数名を、最小、最大 のところに、80,100をそれぞれいれればよい。(他も同様)

15



7. 流星レーダーデータ解析演習

- <下部熱圏・中間圏の風速データ解析> [基礎課題
- 3 コトタバン流星レーダーデータ解析-3
- ●簡単な解析の演習
- > tlimit, 'tplot変数名',開始日時、終了日時 (時刻範囲変更)

(ex. > tlimit, '2012-01-17', '2012-01-27')

例えば、得られているプロットの図に対して、横軸の時刻範囲を2012年1月17日から2012年1月27日に拡大したい場合、このコマンドを用いる。

自分の好きな箇所を拡大したい場合は、tlimitだけを打つと、プロットにカーソルを持ってくると、十字の線が現れるので、各々のところで、右クリックをすれば、そこの時刻の拡大図が出来上がる。

zlim等でカラーバーの範囲をあらかじめ設定しておくと、時刻を拡大 した時に、その範囲が自動で設定されなくなる。



7. 流星レーダーデータ解析演習

<下部熱圏・中間圏の風速データ解析> [基礎課題1]

(4) プロットに必要なtplot変数群

```
iug_meteor_ktb_uwnd_h2t60min00
iug_meteor_ktb_vwnd_h2t60min00
iug_meteor_ktb_uwndsig_h2t60min00
iug_meteor_ktb_vwndsig_h2t60min00
iug_meteor_ktb_mwnum_h2t60min00
```

※上から順に、東西、南北風、その2つの分散、及び風速を 導出するのに用いた流星数である

IUGONET 7. 流星レーダーデータ解析演習

- <下部熱圏・中間圏の風速データ解析> [基礎課題1]
- (5) 解析後のプロット等の保存
- ●作成したプロットをpsやpngファイル等へ保存

[psファイルへの保存]

- > <mark>popen, ' 保存するファイル名'</mark> ex. popen, 'test.ps'
- > tplot
- > pclose

[pngファイルへの保存]

> makepng, '保存するファイル名' ex. makepng, 'test'

●数値データの保存

[tplot形式で保存]

> tplot_save, 'tplot変数名', filename='**' ex. tplot_save, '**', filename= '**'

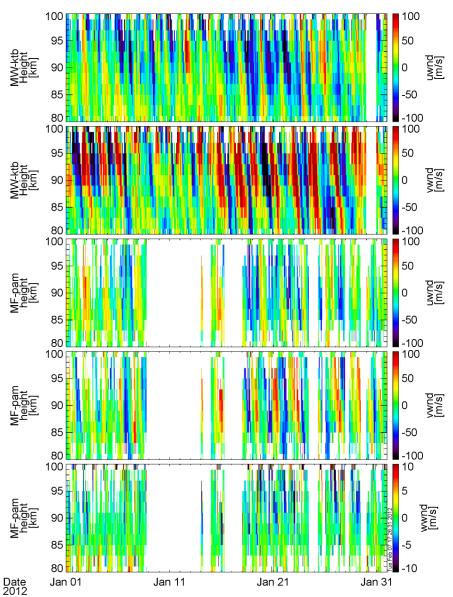
[テキストファイルへの保存]

- tplot_ascii, 'tplot変数名'
- ex. tplot_ascii, '***'



8. MF/流星レーダーデータ解析演習

<下部熱圏・中間圏の風速データの比較解析> [基礎課題2]



コトタバン流星レーダーとパムンプク MFレーダー観測から得られた熱帯域の熱圏下部の風速の高度時間プロットの作成

日時:2012/01/01-2012/02/01

観測高度範囲: 70-110 km

時間分解能:1時間

1段目:東西風(コトタバン)

2段目:南北風(コトタバン)

3段目:東西風(パムンプク)

4段目:南北風(パムンプク)

5段目:鉛直風(パムンプク)

コトタバンとパムンプク上空の風速変動で、2日波が見えている

IUGONET 8. MF/流星レーダーデータ解析演習

- <下部熱圏・中間圏の風速データの比較解析> [基礎課題2]
- (1) パムンプクMFレーダーデータ解析-1
- ●日時を指定して高度-時間プロットを作成する
- > timespan, '2012-01-01', 31 ,/day (2002/01/01から31日分のデータの日時指定)
- > iug_load_mf_rish, site = 'pam'
- > tplot_names (tplot変数名の確認) 風速3成分のtplot変数がロードされる
- > tplot, 'tplot変数名'
 - ⇒プロットが出力される
 - ※複数のプロットをしたい場合: > tplot, ['tplot1', 'tplot2',...]



IUGONET 8. MF/流星レーダーデータ解析演習

- <下部熱圏・中間圏の風速データの比較解析> [基礎課題2]
- (2) パムンプクMFレーダーデータ解析-2
- ●簡単な解析の演習
- > <mark>zlim</mark>, 'tplot変数名', 最小値、最大値 (カラーバー範囲変更) (ex. > zlim, 1, -100, 100)
- > avg_data, 'tplot変数名', 時間(秒)

例えば、東西風速の1時間の平均値を求めたい場合、tplot変数名のとこ ろに東西風速を表すtplot変数名を、時間のところに3600秒をいれれば よい。

通常、MFレーダーの場合、10分以上の平均をかけると、きれいな風速 変動を表すデータとなる

> ylim,'tplot変数名', 最小値、最大値(y軸の範囲変更)

例えば、東西風速の高度80-100kmの熱圏下部の部分に拡大したい場合 は、 tplot変数名のところに東西風速を表すtplot変数名を、最小、最大の <u>ところに、80, 100をそれぞれいれればよい。(他も同様)</u>



8. MF/流星レーダーデータ解析演習

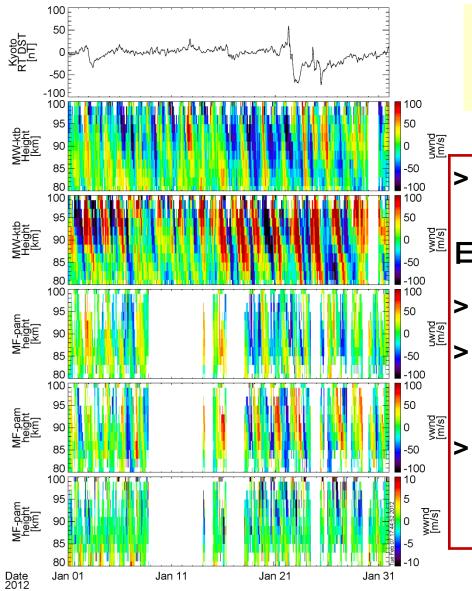
<下部熱圏・中間圏の風速データ解析> [基礎課題

4 プロットに必要なtplot変数群

```
iug_meteor_ktb_uwnd_h2t60min00
iug_meteor_ktb_vwnd_h2t60min00
iug_meteor_ktb_uwndsig_h2t60min00
iug_meteor_ktb_vwndsig_h2t60min00
iug_meteor_ktb_mwnum_h2t60min00
iug_mf_pam_uwnd_avg
iug_mf_pam_vwnd_avg
iug_mf_pam_wwnd_avg
```



<Dst指数とMF/流星レーダーデータの比較解析> [応用課題1]

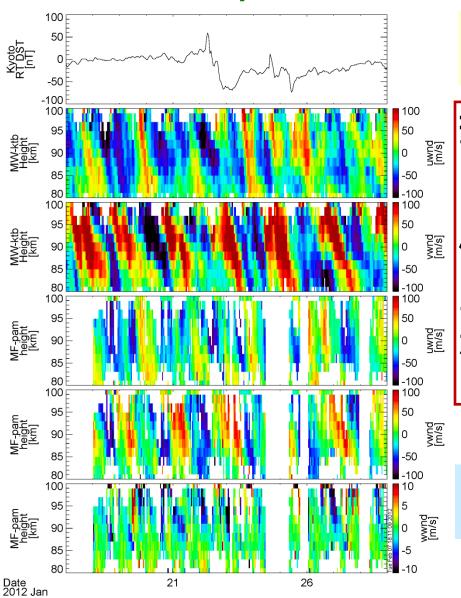


前課題で作成したプロットの上に、Dst 指数データをロードして、そのプロットを 表示させる

- > timespan, '2012-01-01', 31 ,/day (2002/01/01から31日分のデータの 日時指定)
- > kyoto_load_dst
- > tplot_names (tplot変数名の確認) Dst指数のtplot変数が生成される
- > tplot, 'tplot変数名'
 - ⇒プロットが出力される



<Dst指数とMF/流星レーダーデータの比較解析> [応用課題1]



1月22日に発生した磁気嵐の部分を拡大したプロットを作成する

> tlimit, 'tplot変数名', 開始日時、終了日時 (時刻範囲変更)

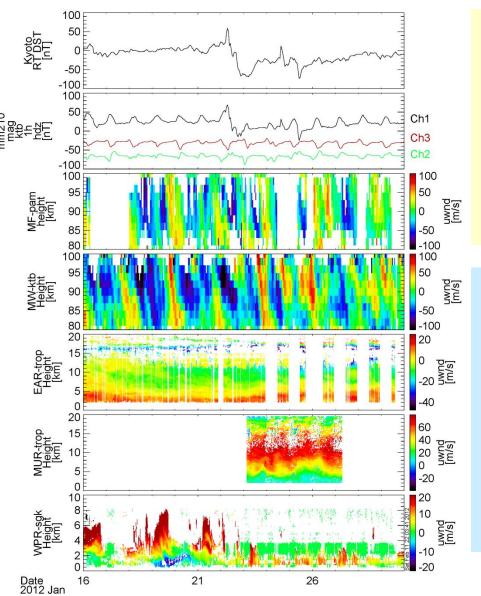
(ex. > tlimit, '2012-01-17', '2012-01-27')

例えば、得られているプロットの図に対して、横軸の時刻範囲を2012年 1月17日から2012年1月27日に拡大したい場合、このコマンドを用いる。

磁気嵐前後において、コトタバンの東西 風の変動パターンが変化している?



<Dst、地磁気とRISHの複数データの比較解析> [応用課題2]



1月22日に発生した磁気嵐前後を含む 地磁気、RISHの複数データのプロット を作成する。

今回の課題では、風速は東西成分について見てみる。

時間があれば、南北風も調べる。

- ○熱圏下部·中間圏(80-100 km)
 - コトタバン・パムンプク
- 〇成層圏下部·対流圏 (2-20 km)
 - 赤道大気、信楽MU
- 〇対流圏下部 (0.5-8.0 km)
 - 信楽WPR

IUGONET 9. 異種のデータセットの解析

<Dst、地磁気とRISHの複数データの比較解析> [応用課題2]

- (1) 信楽と赤道大気観測所のデータ解析
- ●日時を指定して高度-時間プロットを作成する
- > timespan, '2012-01-01', 31 ,/day
- > iug_load_mu
- > iug_load_wpr_rish, site = 'sgk', parameter =['uwnd', 'vwnd']
- > iug_load_ear, datatype = 'troposphere'
- > iug_load_gmag_mm210, site = 'ktb', datatype = '1h'
- > tplot_names ⇒tplot変数名の確認
- > tplot, ['tplot1', 'tplot2',…] ⇒プロットが出力される
- > ylim, 'tplot変数名', 最小, 最大⇒y軸の範囲指定
- > zlim, 'tplot変数名', 最小, 最大⇒カラーバーの範囲指定



<Dst、地磁気とRISHの複数データの比較解析> [応用課題2]

(2) プロットに必要なtplot変数群

東西風をプロットする場合

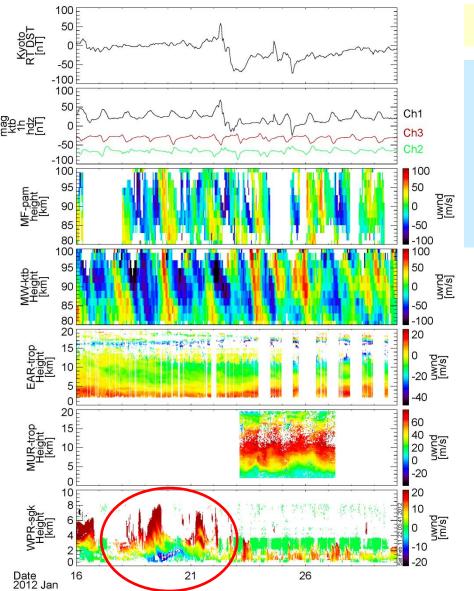
南北風をプロットする場合

```
kyoto_dst
mm210_mag_ktb_1h_hdz
iug_mf_pam_uwnd_avg
iug_meteor_ktb_uwnd_h2t60min00
iug_ear_trop_uwnd
iug_mu_trop_uwnd
iug_wpr_sgk_uwnd
```

```
kyoto_dst
mm210_mag_ktb_1h_hdz
iug_mf_pam_vwnd_avg
iug_meteor_ktb_vwnd_h2t60min00
iug_ear_trop_vwnd
iug_mu_trop_vwnd
iug_wpr_sgk_vwnd
```

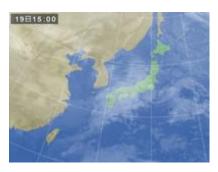


<Dst、地磁気とRISHの複数データの比較解析> [応用課題2]



[データの解釈]

- 〇対流圏の風速変動には、磁気嵐による影響が見られない
 - →上からの影響は届かない?
- 〇信楽WPRの風速が磁気嵐前の19-20日あたりで激しく変動している





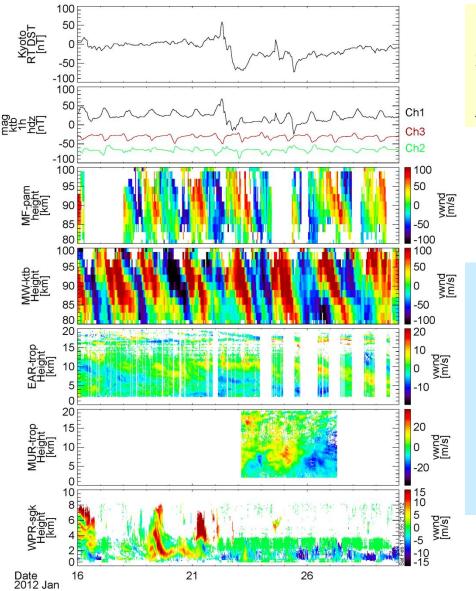
日本付近を通過す る低気圧の影響?



2012年1月19日



<Dst、地磁気とRISHの複数データの比較解析> [応用課題2]



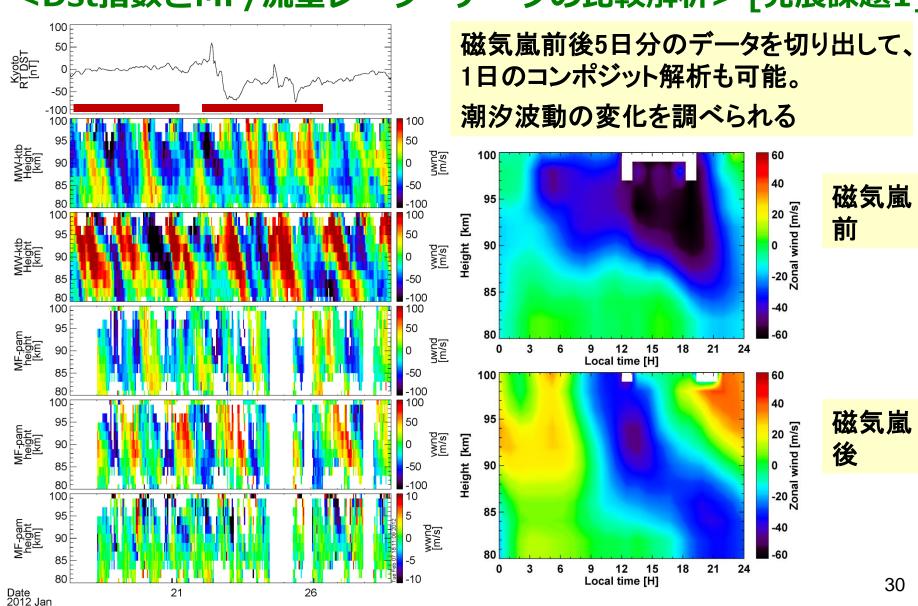
1月22日に発生した磁気嵐前後を含む 地磁気、RISHの複数データのプロット。

風速関係のデータは、南北成分。

- ○熱圏下部・中間圏(80-100 km)における南北風に見られる2日程度の変動がコトタバンとパムンプクの両観測点で見られる
- 〇2日周期の変動が1000km以上のスケールを持つことを両観測点のデータから推察可

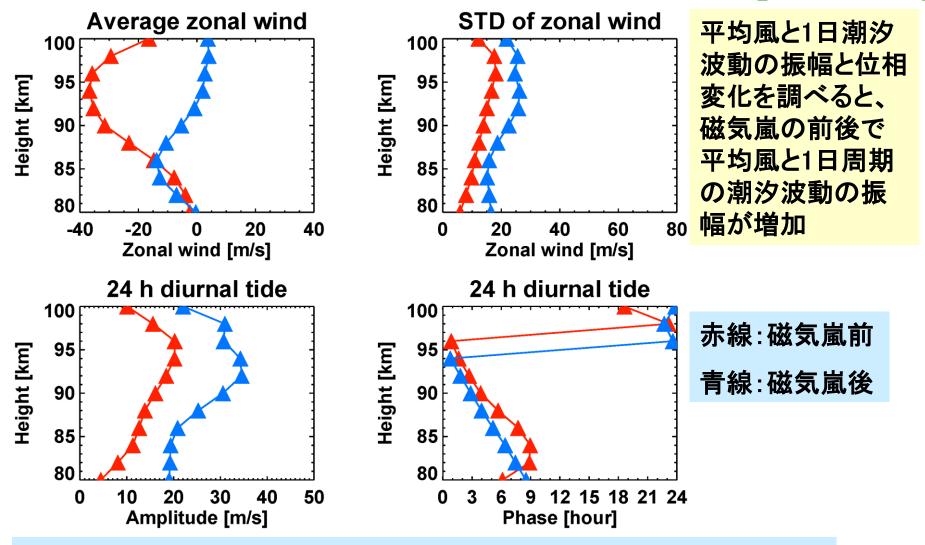


<Dst指数とMF/流星レーダーデータの比較解析> [発展課題1]





<Dst指数とMF/流星レーダーデータの比較解析> [発展課題2]



磁気嵐前後において、東西風とその潮汐成分の振幅が変化している?



10. まとめ

- ●今回の解析講習会で、赤道大気レーダー:対流圏・成層圏標準観測、地磁気指数(Dst)、及びコトタバンの地磁気と流星レーダー風速データ、パムンプクのMFレーダーの風速データ、及び信楽MUレーダー:対流圏・成層圏標準観測とWPRの対流圏下部の風速データの統合解析演習を行った。
- この解析講習会を通じて、各種の分野の異なるデータの統合解析の手法とUDASの使用法を学んだわけであるが、これ以外にもIUGONETプロジェクトでは、多くの超高層観測データ(MLT領域の風速場など)の検索、解析ソフトを公開しているので、皆さんは、ドシドシ使い倒してほしい。
- ●今後も解析ツールの修正や公開データの種類の増加に伴う アップデートがなされるので、IUGONETのホームページを 時折、見て確認してほしい。